
仮面ライダー新世紀 時空警察 ユニヴァース

亀岡梁馬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー新世紀 時空警察 ユニヴァース

【Nコード】

N6765K

【作者名】

亀岡梁馬

【あらすじ】

未来都市・ネオ東京、そこには時間犯罪者を管理する刑務所・時空刑務所力テゴラルがあるそこに死刑宣告された13人の魔人たちが何者かの手で脱獄して各世界のライダーの世界へ旅立ってしまった

『時空刑事・野上正太郎・ネオ電王参上!!』の章（前書き）

この小説では仮面ライダー電王の劇場版『超電王&ディケイド
NEOジェネレーションズ 鬼が島の戦艦』から数年後の世界の話
です

『時空刑事・野上正太郎・ネオ電王参上!!』の章

前編 『デンライナー強奪事件』

時間がまた新しくなる良太郎と別れたモモタロスは良太郎との懐かしい思い出にふけてた

良太郎はモモタロスやデンライナー（時の列車）に乗るイマジンの契約者だったが契約が無事完了した事で元の世界に戻っていったのだった

俺、モモタロス。良太郎と2年間も同じ旅を続けてきたが数々のイマジンを

退治して無事に平和を取り戻したって事で長い長い間、契約者だった野上良太郎と

無事に別れてデンライナーで行く当ても無い旅をしている

今は、モモタロスとウラタロス・・・お供のイマジンと戯れている

『て・・・何、MCしてるねえ!!』

キンタロスがモモタロスの顔をつねってこう言ってきた

『何を・・・痛いじゃないか・・・』

モモタロスとキンタロスは最近、仲が悪い。そう言うのも良太郎と別れてからである

『ちょっと止めなさい・・・みつともない・・・ケンカなんて』

コハナがモモタロスとキンタロスのケンカを仲裁しようとして

いた

こいつがコハナ、ケンカがめちゃくちや強いがこう幼児な姿をしているが大人だ

『もう・・・コーヒーが出来ましたからね、おいときますよ知らないですからね』

ナオミ・・・このデンライナーでアルバイトをしている客室乗務員

いつも客室でコーヒーを作ってくれる　デンライナーの一輪の花

『ナオミちゃんの作りたてのコーヒーは実に美味しいよ』

このキザな青色のイマジンはウラタロス、自信過剰で女好きな変わったイマジン。

『お姉ちゃんのコーヒー美味しいよね・・・砂糖多めに入れるけどいいよね？』

この無邪気な龍の顔をしている、紫のイマジンはリュウタロス
性格はわがままで気分屋。甘えん坊で非常に子供っぽい

後は・・・このケンカをしてきた熊のような黄色いイマジンが
キンタロス
人情に疎い世話好きなイマジン

とまあ・・・俺、モモタロスを入れればデンライナーには7人乗
客者がいる

あ・・・肝心な人を忘れていたこのデンライナーを動かしている
オーナー

チャーハン大好きな運転手的存在??

キキキーキーーーーー（電車の音）

行くあての無い旅が続いていたふと森に近づきデンライナーの線路は森の奥で止まった

止まった先にはなんとも大きな岩が置いてあった

『どうしたんだろう・・・』

ウラタロス＝デンライナーの窓を見て大きな岩にぶつかりそうになるのを発見したのである

『おい・・・クマ公、お前の出番やあ・・・いつちょ行ってきて大きな岩なんか潰してこいやあ!!』

モモタロスはさっきの顔をつねったお返しとばかりにクマタロス・・・まぢがえた・・・

キンタロスに怒鳴り込んだ

『よし、一発。チョップでもお見舞いして岩なんか潰して仕舞おうか!!』

キンタロスはモモタロスのウツプンを晴らすかのようにデンライナーから

出て線路の前にある大きな岩を潰そうとした

モモタロス・ウラタロス・リュウタロスはキンタロスの活躍を見るために

デンライナーの車外から出て行った

『こんな岩ぐらい軽いで・・・しかし、よしやあ一丁やってみるか!!』

キンタロスは空中に飛び、上から持っていた斧を出して岩めがけて『俺の強さにお前らが泣いた・・・必殺、ダイナミックチョップ

！！！

キンタロスは岩めがけてぶった切り、大根のように二つに割れた

客室に今いるのはオーナーとコハナとナオミの3名だったが・
・客室を見る不

気味な黒い影があつた

パーパーパーパーン（銃の音）

『大人しくしろ、このデンライナーは我々が占拠した』

見知らぬ男たちがデンライナー自体を丸ごと占拠してしまった
のである

そう大きな岩もこの一団の仕業だった

そうとも知らず、大きな岩を潰しに行ったモモタロスたちはデン
ライナーから出たため
車内の事を何も知らなかった

ガッターーン・・・ガッターーン（デンライナ
ーが動く音）

『あれ・・・デンライナーが動いたよ・・・』
無邪気にリュウタロスはモモタロスたちに言ったが言うのが
遅くてデンライナーはどこかに去ってしまった

『デンライナーが消えちゃってどうするんですか・・・センパ
イ』

ウラタロスはモモタロスに声をかけるがモモタロスは・・・

『ごちゃごちゃ言うなあ・・・今、考えているからなあ』
モモタロスは小さい脳で考えて考えて見るけど何も思いつかなか
った

『どうしたんやあ・・・デンライナーは突然、行ってしまった
しもう俺らは放り出されたみたいだな!!』

クマタロス・・・いやいや、キンタロスは慎重的な思いで語り始めた

『さあ、どないしようかな・・・デンライナーも無いことでこ
の世界でもう4人で暮らすか!!』

『クマ公、何かと暮らせるか!!』

『何を・・・モモは何か出来るのか??』

『いやあ、出来ないが・・・ホームレスみたいなのが嫌いじゃあ

!!アホが!!』

相変わらず、モモタロスとキンタロスの口げんかはたえない

『もーっう、先輩たちここは冷静になりましょう』

ウラタロスは事を整理して考えようとした

『ようするに、デンライナーの線路前に大きな岩があつて

それをキンタロスが割りその時にデンライナーが動き出した』

『そうよ・・・デンライナーが動いた・・・』

ピカーーン（ひらめいた音）

モモタロスは何かひらめいたみたいだ

『デンライナーが突然、動いてしまったってそれ事故ちゃうか！

!!』

モモタロスはデンライナーからはぐれてしまった事を今、気づい

たのだった

『さあ・・・どうするかだよ!! わかってる先輩たち!!』
ウラタロスはモモタロスたちの不甲斐ない考えで頭を混乱させていた

『僕はどうでもいいけどさあ・・・』
リュウタロスは無邪気に言って和まそうとしたが

ピーーヒューーン（電車の音）

そこに突然・・・黄色い線路が出来た、するとそこには黄色い時の列車が現れた
何かデンライナーとは違うみたいだった

『あれってデンライナー???』
ウラタロスはその列車を見るとそう言うが何か違う
『でも色が違う???』

リュウタロスもまた、列車を見たが色が違っていた

謎の時の列車は突然、モモタロスの前で止まり扉が開いた
すると思いがけない人物が現れた、それは幸太郎だった

幸太郎と言うのはモモタロスたちの契約者だった人の孫で未来ではNEW電王として活躍している

『お前らを探していた、行くよね!!』
幸太郎は何でデンライナーが動いたのかも知っているようだ
幸太郎に呼ばれてモモタロスは謎の列車に入っていくのだった

「謎の列車の車内」

ゴーン（扉の開く音）

扉が開くとそこは客室だった、そこには一人の若い男性が座っていた

『紹介するよ・・・この人がいや・・・俺の父』

幸太郎は座っていた若い男性を紹介してきたが父親には見えなかった

『初めまして私は野上正太郎です。いつも息子が迷惑をかけてしまつてすみません』

『今回はあなたたちにも関係があることで私が出てきました。早速言つとデンライナーは

強奪されました』

正太郎はモタロスたちに伝える

『今回はそれだけでは無いのです、実はその犯人が未来人なんです』

『未来人！！！！』（モタロスたちは、ビックリする）

『実は私たちがいる世界にある時空刑務所と言つ時間犯罪者が入れられる

刑務所があるのですがそこに13人の死刑囚が何者かの手によって脱獄してしまいました。各ライダーの世界へ旅立つたみたいです・

・それが原因で私はこの通り若者に若返つてしまいました』

『その中の一人でデューク西条と言つのがイマジンを飼っているのです』

デューク西条、かつて未来で5千人もの人を大虐殺した人間。時空法により永久凍死刑が確定した

『で・・・その、デューク・・・なんじゃら・・・???』
モモタロスは正太郎に聞くが

『デュークなんじゃら・・・では無く西条ですよ。先輩!! しっかりしてください』

『ウラタロス、ぐちゃぐちゃうるさいわかったよ・・・そのデューク西条って奴がどうしたんだよ!!』

『デューク西条はクロノス・イマジンと言う飼い犬みたいなイマジンと集団で狩りを楽しいんでいたんです。ですがその脱獄に手を貸した奴の集団に入ったんですよ・・・』

え・・・え!!! (モモタロスたちはビックリする)

『それにさきの闘い(仮面ライダー電王の本編)で倒したカイって人間はデュークの弟なんですよ』

だからデンライナー自体を強奪したみたいです』

正太郎が突きつけた衝撃の事実が・・・

カイ(本編のイマジンのボス)に兄貴分がいた事が・・・

『それでデュークは奴はデンライナーを奪ってどうするつもりだ!!!』

モモタロスは正太郎にデンライナーを奪った事を聞く

『デュークは自分を時空刑務所、送りにした野上家を抹殺するためにデンライナーを使い過

去の良太郎を殺しに言ったみたいですな』

たんとんとそう語る正太郎を見てモモタロスは

『早く、デュークは奴を捕まえるのが先だろう!!』

『でもね・・・やすやすと捕まらない・・・って言ってるだろ!!!』

幸太郎はモモタロスに突っかかるように言ってきた

『それにこうね……』

幸太郎は小さい子供を紹介した、紛れも無いその子は野上良太郎だった

『それは数日前に……』

未来の世界

そこで時空刑務所から脱獄したデュークは自分を捕まえた野上良太郎をまず先に殺しに行ったのだった

良太郎を探し出したデュークは良太郎に挑戦を挑んできたのだった

良太郎もそれに応じてデュークのいる工場まで足を運んだ

『やっと現れたな……野上良太郎……いや、電王……!』
デュークは良太郎を見るなりそう言って来た

『じゃー……あ、パパツとかたづけるからね!! 答えは聞いてない』

すでにリユウタロスに憑依されていたR良太郎はすぐさまデノオウベルトを出し

ライダーパスを挿し電王Gフォームに変身した

『あ……電王GFか??? また、倒されたいって事か!! 笑わせるなあ……!』

デュークはGF見て電王に言い放つ

『ごっちゃごちゃ言っていないけど殺すよ……君!! 答えは聞いてないけどね……!』

『まあ、どっちにしてもお前は俺に倒されるのだからな……!』

『電王だけじゃなく野上一人も残さず殺す、それが俺が脱獄した目的だ!!』

まあ・・・言い消える!!』

『いい度胸じゃないのでも君、倒すよ!!』

『じゃあ・・・倒してみろ!!』

そう言つとデュークも自分と契約したイマジンから新しい力を得ていた

『じゃあ・・・俺も変身することにしようか!!新しい力を手に入れたからまあ、

肩慣らし程度になあ!!』

デュークは謎のライダーベルト・・・デンオウベルトとは違い黒い色をした形の

ライダーベルトを持ち両手をかざしてポーズを決めた

>>>変身<<<

するとクロノスイマジンも吸収されてライダーに変身した

黒い色の・・・ダークな感じのライダーが現れた

まさしくそれは電王とは違う別のライダーだった

『まあ、俺的に言つとライダークロノスで事だがな!!』

じゃあ、いかせて貰うぜ!!野上一家狩りの始まりだ!!』

クロノスは電王目掛けてクロノスブレードで斬りかかったGFもすぐさま応戦して
ワイルドショット（射撃技）をお見舞いしたがすんでのところでクロノスにかわされる

スピードも段違いのクロノス、GFでも勝てないと思いモモタロ스가良太郎に

『俺に代われ、奴を叩きつてやる!!』

良太郎はモモタロスの助言によりSFに変えた

ソードフォーム

『俺参上!!』

SFに変えて決めポーズを放った

『本当のクライマックスを見せてやるぜ!!』

『まあ、お前のクライマックスも今回で見納めだ!!』

クロノスはすぐさまSFを攻撃してものの数秒でSFを片付けた・

・

『そ・・・そ・・・なあ・・・』

モモも倒された事で良太郎はこれじゃ倒されると思い

(みんな、一緒にやるよ・・・)と良太郎の呼び声で

『やりますか!!』(キンタロスの声)

『てんこ盛り!!!』(リュウタロスの声)

モモタロス・ウラタロス・キンタロス・リュウタロス・ジーク

は全員合体を

クライマックスフォーム

して電王超KFに変身した

『何だ・・・この羽根!!てば野郎お前か!!』(モモタロスの声)

『美しいだろこの羽根!!』(ジークの声)

『オーお前、出て行け!!』(モモタロスの声)

『わーい、鳥さんもくっ付いた!!』(リュウタロスの声)

リュウタロスははしゃぐはしゃぎまわるが

『もう・・・ちよつとキンちゃん押さないで!!』(ウラタ

ロスの声)

『狭いからしょうがない野郎!!』(キンタロスの声)

『家臣どもくるしゅうない・・・』(ジークの声)

『苦しいーんだよ!!』(モモタロスの声)

(モモタロス・・・いいから行くよ!!)>良太郎の声<

『何回変わるうが同じだがな!!』

クロノスのハイパークロノスクラッシュをくらい電王のベルトを破壊された

中に憑依しているイマジンたちは全員行き場を無くしていた
クロノスは黒い球状のような弾を良太郎にくらわせて

『最後のお祭りだ……!!』

黒い球状の弾は良太郎を体を包み込み良太郎を子供に変えてしま
った

『もう、これで電王は終わりだな!!』

クロノスは良太郎の姿をみずにその場を立ち去った

『良太郎……大丈夫か??』（モモタロスの声）

『うわー……あ??お前、誰だ??』

『良太郎……俺だよ、モモタロスだよ!!』（モモタロスの声）
そう、良太郎は小さくなったと同時にモモタロスたちと会った記
憶さえも

忘れてしまったのだった

だが、そこに幸太郎と正太郎のNEWデンライナーが現れて助か
った

『良太郎おじさんは未来でデュークの奴に闘いを挑み子供にさ
れてしまった

危機一髪って所をこのNEWデンライナーで救ったって事だよ・

・

『それじゃあ……俺たちの記憶さえもデュークの戦いで吹っ飛
んでしまったって訳か!!』（モモタロス）

『その通り、今回のデンライナー強奪の一件も過去の歴史を変えて
野上家を抹殺するのが目的だというのは捜査で判ったことです』

正太郎はモモタロスに名刺を渡した……

『時空警察ユニヴァース1課 刑事・野上正太郎!!』

『て……お前らは時空警察の者だったのか!!』

『そうです、我々時空警察の刑事は元々は各世界のライダーたち

を影で支える

サポーター的存在でしたが近年、あるライダーが各ライダーの世界へもたらした

有害な事で各ライダー達の世界が共存を図ってきた訳です。各ライダーの世界は表裏一体、表もあれば裏もある光あれば影ありと言うことです」

『で・・・なぜ、今回現れたんだ!!』

『言わば、時空刑務所で時空犯罪者が13人脱獄したのはさっき話しましたね。』

その中の一人がかなりの大物でその者が各ライダー達の抹殺の為にデュークをこの世界に送ったんだと思います」

『でも、デンライナーは強奪されて無いんじゃ・・・居場所は判らないし』(ウラタロス)

『いや・・・居場所ならすでにわかっています。このNEWデンライナーを作ったのは

私、デンライナーを作ったのも私。デンライナーの居場所なんて全て見通せるということですよ!!』

『そーゆーこと!!』(駅長)

駅長さん!!!(一同ビックリした)

『駅長、もはや猶予はありません。あいつらが行く場所は私が持っているライダーパスで

1600年10月21日岐阜となっています』

『1600年10月21日の岐阜って!!確か、その日は時の將軍・徳川家康が関が原で

西軍の大將・石田三成の軍を破り歴史に残る名勝負をした日だ!

!』(ウラタロス)

『もしや・・・デュークが考えていることは!!』

『そのもしやですよ・・・その闘いにて東軍の大將の徳川家康

が殺されていたら

どうなるんでしょうかね?? 歴史が変わります」

「未来も変わります!!」

「早く、デンライナーを追っかけないと……!!」 (ウラタロス)

「じゃあ……フルパワーで行くぞ!!」

幸太郎はNEWデンバードに乗りNEWデンライナーをフルパワーで

デュークたちの乗るデンライナーの後を追いかけた

次回予告

ついにNEWデンライナーのフルパワーによりデンライナーに追いついた

モモたちだがデンライナーから降りてきたデュークたちと戦おうとした

幸太郎はデディによりNEW電王に変身して戦おうとするがどうなる事か!!

次回、中篇 「NEW電王、敗れる!!」 をお楽しみに

『時空刑事・野上正太郎・ネオ電王参上!!』の章（後書き）

この作品はドラマ性を豊かにしてバトルも多めに取り入れた初心者が書いた作品ですが色々な読者さまのお声を反映して意向とおもいますのでよろしくお願いします

少々、書いたつもりですが・・・まだまだ未熟な私です・・・な
ぶりがきな文もあります在今后ともよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6765k/>

仮面ライダー新世紀 時空警察 ユニヴァース

2010年10月12日02時20分発行